

いざというとき動ける人に

校長 木和田 美佐

新年あけましておめでとうございます。保護者・地域の皆様方には、昨年中も温かい御理解と御支援・御協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。本年も教職員一同、一丸となって教育活動に取り組んでいく所存でございます。何卒よろしく願いいたします。

今年の年始は、天候にも恵まれ穏やかな三が日となりましたが、思い起こせば今年の元旦は能登半島で最大震度7の地震が起き、津波も襲来する等甚大な被害がありました。1年たった現在でも、未だ救助活動も続き、避難して不便な生活を余儀なくされている人々が多数いるとのニュースをたびたび目にします。被害に遭われた多くの方々に対し、1日も早く日常の生活が取り戻せることを願ってやみません。

災害は予測不可能ではありますが、準備や意識をもっておくことで、その影響を小さく抑えることも場合によってはできると思います。田島中学校でも一学期の引き渡し訓練も含め、各学期に一回ずつ災害発生時の設定を工夫しながら避難訓練を実施しています。地震大国でもある日本では、いつ、どこで地震等の災害が起きてもおかしくないという意識をもっておくことが大切だと考えているからです。また、訓練後の校長講話で、私が必ず生徒達に伝えていることがあります。それは、「中学生の皆さんが、地域の核となって動いてほしい」ということです。例えば平日の昼間大きな地震が発生した場合、地域から離れて仕事をしている大人の代わりに、小さな子どもたちや高齢の方々の避難にいち早く力を貸せるのは中学生だ、と確信しているからです。私は、田島中学校の生徒達が、いざという時に地域の核となって自ら動くことのできる人になってほしいと思っています。いざというときの備えで大切なことは、物資ももちろんですが、「いつでも人のために動けるという心構え」が大切だと常に生徒たちにメッセージとして伝え続けていく所存です。今年1月17日は「阪神・淡路大震災」が起こった日ということで「災害とボランティアの日」に制定されています。災害は起きないことが一番ですが、万が一の際、自分たちの地域で発生したときに、「命を守る」ための準備や方法を各御家庭でもぜひこの機会にお話してください。

さて、話は変わりますが、今年は「蛇年」ということで、蛇は、皮を脱ぎ捨てて新たな姿に生まれ変わることから、再生や永遠の象徴とされています。またこうした意味から「蛇年」は「新しい挑戦」や「変化に対して前向きな姿勢を示す年」とも言われています。いままで引っ込み思案だった人は、これを機会に「積極的な自分」に今年は**脱皮**するはどうでしょう、と生徒達にも伝えました。一皮むけた「新しい自分」に生徒一人ひとりがさらに成長することを楽しみにしています。また、三年生はいよいよ進路選択の時期が迫ってきました。健康には十分気を付けて、今まで準備してきた力を存分に発揮して、夢に向かって頑張してほしいと思います。

どうか、皆さまにとっても、今年一年が良い年でありますように。